

読者の皆さん！起きて下さい！もうクロ釣りシーズンですよ！今回はクロの宝庫・甕島に行つて来ました！いい釣りが出来ましたので、当日の様子や秋磯の釣り方など、なるべく分かりやすく解説してみたいと思います。

マキエして海中を確認

釣り始めは午前6時頃、海の状態が分かるような明るさになってから最初のマキエを入れました。暗い内からマキエを入れると、余計にエサ盗りを集めてしまうことを避けるためです。

- そして主に、
- (1) 潮の流れ
 - (2) エサ盗りの種類や数
 - (3) クロが居るか居ないか、魚たちの動き、マキエの反応など

これらを確認して仕掛け作りを始めます。クロが居れば、タナを決めるなどして浅めに釣る仕掛け、見えない時はタナを探る仕掛け、つまり『0や00のウキで上から探るようなウキ止め無し』の全遊動』や『Bや2Bのウキでウキ止めを竿1本ほどに付け、竿1本のタナからはオキアミの沈下速度と一緒にジワジワ沈むようガン玉で設定し、竿2本くらいまで探るような半遊動仕掛け』とします。

浅ダナで手返しを多く

当日はクロが瀬際に見えたので、浅めに釣る半遊動仕掛けにします。ハリス上2〜2ヒロ半にウキ止めを付け、ハリスは1ヒロ半〜

当日の主なエサ盗りはイスズミ、オヤビツチャ、グルクン、アオブダイなどで、イスズミやグルクンはだいたい沖に出せましたが、オヤビツチャ、アオブダイに悩まされながら、足元のクロを狙う展開になりました。

際狙い

際狙いでは、際から1ヒロ以内を狙うようにして、ツケエが残つて来るようならば、少し沖へも流してみます。その時の潮のタイミングなどに合わせてもみます。

まだエサがあまり入っていないこともあつてか、クロはマキエに慣れていない様子で、あまりマキエを

*沖の足速エサ盗り用マキエは欠かさず打つ



*海中のフカセウキゴムやウキの変化をよく見て『確実に乗ったな』という時にアワす！



2ヒロ、ウキの遊動部分は半ヒロで0号のウキでスタートします。浅ダナでツケエサを止めてクロが喰い上がる瞬間を待ちます。この仕掛けはウキの変化でツケエサの有無が分かり、ウキに変化がある時は、エサが無くなるか、魚が掛かるかのどちらかです。秋磯はエサ

エサ盗り対策

オヤビツチャ、スズメダイ、ネンブツダイなど足の遅いエサ盗りが多い時は、マキエで足元にクギ付けて、本命のクロは沖の潮筋狙いとしします。仕掛けを入れる時の

盗りが多く、浅めに釣る方が手返し早く、勝負も早いです。釣り始めは上げ潮で、潮流を流す本命釣り場には同行の大山氏が入っていました。私の釣り座は沖目の潮筋が大山氏のエリアへと流れていき、下げ潮の方が良さそうなのでした。

秋グロ

サイトイメージ sight & image フィッシング!!

南のつりアドバイザー
野間辰美

★秋グロ必携アイテム
細軸から中軸のグレバリ
ラインメンディング
しやすい細い道糸
軽くて持ち重りしない竿

マキエは、クロ用でまず沖に1杯、次にエサ盗り用で足元に2杯、ツケエを付けて、足元に2杯、そして沖のマキエ投入点に仕掛けを入れるなどします。

また、イスズミやグルクン、サバ、アジゴなど、足の速いエサ盗りが多い場合は沖に集めて、瀬際（足元）狙いとしします。この時は、クロ用のマキエは最初に際に1杯、沖にエサ盗り用で2杯、ツケエを付けて、沖に2杯、そして際のマキエ投入点に仕掛けを入れます。

（*サバ・アジゴなど沢山居る時は厳しいですね〜！）



▲ハリス：サンライン
ブラックストリーム
竿：がま磯
インテッサG-V
1.25-5.3m



▼マルキュー
フィッシング
グローブ



偏光グラスは海中の様子を知るために欠かせない!!



▲釣研：
ゼクト
M-0号



がまかつ新製品!!

低活性時の食い渋りやスレたクロ攻略に対応。細軸軽量設計でサシ餌とマキ餌の同調、コンパクト形状と鈎重量の軽さが違和感を軽減、細軸による貫通抵抗の軽減で軽いアワセでも確実に鈎掛かり。沖磯だけでなく、地磯・堤防など繊細なクロ釣りが求められる様々なフィールドで威力を発揮する!!



★マキエサは1日分（約8時間）で、オキアミ生3kgを2角、アミエビ3kgを1角。配合エサにマルキューの「グレパワーV9」「グレの道」「超遠投グレ」を各1袋ずつ。2回に分けて作り（1回約4時間分）、よく混ぜ込み粘りも持たせて、遠投が出来るように仕上げた。

追いかけて、動きが悪いようです。11月の後半くらいまではこんな傾向になりがちですから、秋磯序盤は一般的に本命とされる潮筋だけでなく、磯際や沈み瀬、潮裏、潮が動いていない所なども狙って見るようにします。

サイトフィッシング

この時は足元に10尾ほどのクロが見えましたが、居る所を確認してツケエから落すようにします。ウキをボチャッと投げるのではなく、ツケエ先行で仕掛けを落して行きます。ツケエ、ハリス、ウキと順に道糸を張り気味にして海面に置く感じです。

仕掛けは、ほぼ水平な状態からツケエ先行で馴染んで行きます。そろそろ仕掛けが馴染んだかなという時には（ウキを支点に大体45〜60度の角度）、『そろそろ来るぞ!』と身構えた方が良いでしょう。

すると、フカセウキゴムが走ります。魚がエサを触っています。ここではまだアワせず、ウキに反応が出て沈み、『確実に乗ったな』と

いう時にアワすようにします。無駄にシユンと早アワセして、空振りだと、音や振動などによって魚が散つてしまいがちです。

フカセウキゴムやウキに変化が出てもらえない時は、オヤビツチャがエサを盗っている時が多いです。もちろん仕掛け回収も丁寧に静かにします。

噛み跡判断!?



そして、ツケエの有無、盗られ方を確認します。ハリのチモト側にオキアミの尾側などが残っている時はクロの確率が高いです。慣れないエサを用心しながらも興味があるので少しずつ噛んだ感じでしょうか？ また、オヤビツチャなどはエサ盗りの達人で、殻だけ残ることも多いです。

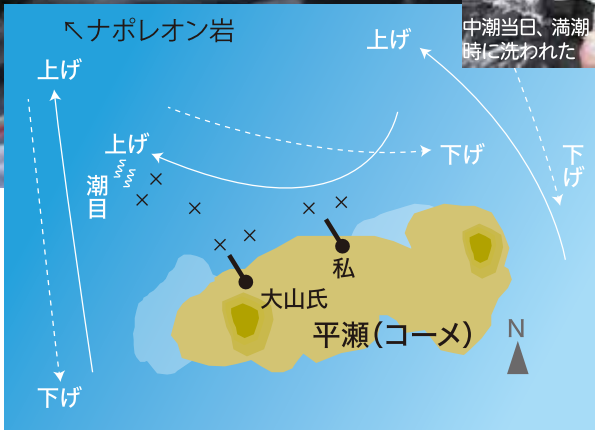
私の経験から、この傾向は12月頃まで続き、寒グロ季になるとクロはオキアミの味に慣れたのか、喰いがよくなり、噛み切った跡が残ってくることもあります。アタリは出やすくよく釣れます。

そして春先のノッコミ盛期・産卵直前ともなると、クロは再び警

シビれます!

今回は、明け方から準備をして釣り始め、潮位が予想以上に高かったため満潮時は釣りができず、正味3時間ほどでしたが、中々の

戒心も強まり、オキアミを口先でチヨコチヨコと噛んでは吐き出し、また噛んで吐いてを繰り返すようで、殻だけ残って来るのがよくあります。



中潮当日、満潮時に洗われた



秋磯は寒グロ本番に向けてのウォーミングアップの時期でもありいろいろと試して面白い季節でもあります。ただ、競技会などに出る人はスタートダッシュで一生懸命頑張ってください。